第44回 組合員海外酪農視察研修

第44回目となる海外酪農視察研修が2015年11月９日～15日の７日間の日程で開催されました。この研修は、デーリィマン社との共催で行われ、カナダのトロント州で開催されたロイヤル・ウインター・フェアやケベック郊外にある牧場を視察しました。以下に、その概要を報告いたします。

11月９日　カナダへ向けて出発

今年度のツアー参加者は、総勢15名(道内　７名；本州　７名；添乗員１名)でした。昨年より５名少ない視察団となりましたが、これには10月末に開催された全日本ホルスタイン共進会に皆さん足を運んだことが影響しているのかもしれません。また、今年度は本州からの参加者が例年に比べて多いという特徴がありました。

行程表

日にち	曜日	内容
11/09	(月)	日本 ⇒ カナダ
11/10	(火)	ケベック近郊の牧場視察、市内観光
11/11	(水)	トロントへ空路移動。ナイアガラ観光
11/12	(木)	ロイヤル・ウインター・フェア視察
11/13	(金)	ロイヤル・ウインター・フェア視察
11/14	(土)	カナダ ⇒ 日本
11/15	(日)	日本到着

小職を含む道内からの参加者は、新千歳空港に集合しました。出発前の結団式では、デーリィマン社の西本専務および当組合の藤澤参事より激励の挨拶をいただき、当組合の山口理事を団長に羽田空港へと向かいました。羽田空港にて、本州からのツアー参加者と合流し、挨拶もほどほどにトロント空港へ向けて出発しました。トロント空港には大きな遅れなどなく定刻通り到着しました。入国審査を済ませ、空港ロビーへ行くと、本視察研修の通訳を担当していただくテリー鈴木氏が待機していました。参加者の中には、テリー氏と面識のある方がおり、再会を大変喜んでいました。例年ですと１日目の行程はナイアガラ観光のようですが、今年度のツアーではトロントからさらに乗継をして、ケベックまで向かいました。ホテル到着時には既に夜も更けており、一行はチェックインを済ませると、足早に部屋へ向かい体を休めました。

【写真左上】ケベック旧市街にあるサミュエル・ド・シャンプランの銅像
【写真左下】ケベック旧市街の丘から見下ろすセントローレンス川
【写真右下】ロワータウンからみるケベック旧市街。左上の建物は、フェアモン・シャトーフロントナックという一流ホテル

11月10日　牧場視察

さて、ケベックまで足を運んだ理由は、多くの素晴らしい牧場を視察するためです。本研修では３軒の牧場を視察させていただきました。この日の天気は晴れで絶好の牧場視察日和でした。視察先の牧場へ向かう前に、ケベック旧市街をバスで散策しました。ケベック旧市街の歴史地区は、世界遺産に登録されており、城壁に囲まれた北米唯一の城塞都市として有名です。そこにはフランスの支配下にあった当時の建築や面影が今でも多数残されており、情緒にあふれた街並みが広がっていました。皆さんご存知の通り、カナダの公用語は英語とフランス語です。このケベック州は、フランス領であった歴史的背景があるので、フランス語が日常語として利用されています。

【ボーレットファーム】

１軒目の視察先であるボーレットファームは、市街地より30分ほどの距離にありました。この牧場の総飼養頭数は500頭で、そのうち搾乳牛が約120頭です。牛群の305日成績は、乳量が11,000kg、乳脂肪率が4.25%、乳蛋白率が3.3%。一定量の出荷乳量を確保するためにホルスタインの無登録

数々のショウ歴と秀でた結果を物語るDisplay

牛を、また乳脂肪を増やすためにジャージーを少頭数飼養しているようです。牛群の平均淘汰産次は４産です。これまでに50頭以上のEX牛を輩出しており、カナダで最もEXが続いている家系の雌牛も繁養されていました。牛の出入りがかなり頻繁にあるため、案内していただいた従業員のマキシム主任は、すべての牛を把握するのが大変と話していました。この牧場では体型を重視して供用種雄牛を選出しており、ゲノミックヤングサイアー（80% カナダ、20% アメリカ）も利用しています。良い系統の雌牛にはゴールドウイン、デンプシー、アツトウツドなどの血縁のヤングサイアーを供用しているそうです。

【ペティトクレルクファーム】

牧場のオーナーの息子であるレジェン氏に案内してもらいました。この牧場は1950年に創業し、1987年に繁殖成績が優秀な牛群に贈られるマスターブリーダーの称号を獲得しています。総飼養頭数は300頭で、うち100頭が搾乳牛です。労働力は５人（家族４人、従業員１人）で、繁忙期にはヘルパーを雇っているそうです。牛群の305日成績は、乳量が11,200kg、乳脂肪率が4.4%、乳蛋白率が3.4%。供用する種雄牛は、検定済サイアーとヤングサイアーを75%と25%の割合で利用しています。牛群の90%以上が自家繁殖で、５%ほどが購入によるものです。ETは１年で30頭ほど行います。この地域は寒暖差が激しく、冬には−30℃まで冷え込むことがありますが、その時期でも牛舎内は＋４℃前後に保たれています。分娩予定牛は３週間前に分娩房へ移動します。分娩房にはカメラが設置されており、様子をスマートフォンで随時見ることが可能であると話していました。分娩房の隣には弱い子牛のための隔離施設が併設されており、健康管理への徹底した配慮が伺えました。

搾乳牛舎、牛舎は計４棟

新設した牛舎。天井には網を覆い、鳥が侵入するのを防いでいる。

案内していただいたレジェン氏とともに記念撮影

【ジェイコブスファーム】

2軒目の視察先から2～3分の距離に、最後の視察先であるジェイコブスファームがありました。ここでは牧場主の息子のヤンさんに案内していただきました。1965年に彼の祖父母が牧場を創業しました。

ジエイコブス ゴールドウイン バラナ
2015年WDEのリザーブグランドチャンピオン。EX-95今回のロイヤルには、残念ながら出場せず。

総面積は400ヘクタールです。現在の総飼養頭数は600頭であり、分娩頭数は年間で約300頭です。305日成績は乳量が11,500kg、乳脂肪率が4.1%、乳蛋白率が3.4%。収入は乳生産と個体販売等によるもので、それぞれ半々程度となっています。個体販売の収入のうち20%が受精卵の販売とのことでした。現在の労働力は、7人(家族5人と従業員2人)で、コントラ業者は使っていません。削蹄は年3～4回行います。体型の改良に重点を置いており、供用種雄牛には100%近くヤングサイアーを利用しています。牛舎にはなんと150頭近いゴールドウインの娘牛がいるそうです。生まれた娘牛のSNP検査をしているか聞いたところ、していないとの回答でした。

左には初産牛、右には経産牛が並ぶ。高レベルの牛たちに、参加者は「こんな牛たちだったら搾乳が楽しいだろうなあ」と感嘆していた。

ボナクエイル マヤ ゴールドウイン
2013年WDEのシュプリームチャンピオン。
EX-95。

視察を終え、ホテルへは夕刻頃に戻りました。この日はホテル内のレストランで夕食をいただきました。前日に参加者全員でゆっくりとお話しをする機会がなかったので、この場で改めてそれぞれ自己紹介を行いました。

11月11日　ナイアガラの滝を堪能

明日からのロイヤル・ウインター・フェアの視察に向けて一行はケベックを発ち、会場のあるトロントへと舞い戻りました。トロント空港ではあるツアー参加者の方が預けた荷物が出てこない！、というハプニングに見舞われました。係の方に問い合わせると、数十分後にベルトコンベアーが動き出し、その方の荷物だけが流れてきました。日本だと中々考えられないことですが、なにはともあれ無事確保できて一安心しました。

この日は世界3大瀑布のひとつのナイアガラの滝へと向かいました。ナイアガラの滝では、「霧の乙女号」に乗船しました（例年だと10月までの運行ですが、2014年より11月まで運行可能になりました)。この時期はピークの時期に比べて水量が少ないとのことですが、それでも十分な迫力で、水しぶきでずぶ濡れになるほどの近距離で滝の迫力を肌で感じることができ、一同大満足でした。

「霧の乙女号」から見るナイアガラの滝

11月12日　ロイヤル・ウインター・フェア①

いよいよロイヤル・ウインター・フェアの視察です。午前９時前に会場へ到着すると、人も少なく閑散としていましたが、10時を過ぎると多くの人が来場し、大変な賑わいをみせていました。ロイヤル・ウインター・フェアは、農業博覧会で乳牛の共進会以外にもホースショウやドッグショウなど様々な催しが行われます。広い会場の中には乳製品や農機具なども多数展示され、様々なジャンルのブースが併設されています。子供向けの施設も多数あり、現地の小学生や中学生が多数来場していました。10日間の開催期間中の来場者はなんと36万人というから驚きです。

この日は終日自由行動ですが、多くのツアー参加者は、Ring of Excellence会場にてR&Wホルスタインショウおよび B&Wホルスタインショウ１部と２部を観覧しました。Ring of Excellence会場は展示および飲食ブースと隣接しており、一般来場者も自由に入場可能なエリアです。

審査終了後のRing of Excellence会場では、午後５時よりセールが開催されました。最高落札価格は、ビューホーム モントレー ETの娘牛で、170,000カナダドルでした。

R&Wのチャンピオン牛
左から、GC、RGC、準RGC

第２部の審査の様子

セール風景

11月13日　ローヤル・ウインター・フェア②

前日馬術競技が行われていたリコーコロシアム（普段は、アイスホッケーの試合が行われる会場）に会場を移し、B&Wホルスタインショウの３部から審査が行われました。

素晴らしい体型を備えた出品牛に、一同はショウを食い入るように観覧していました。グランドチャンピオン決定戦がはじまりスポットライトを浴びながら１頭ずつ牛が入場してくると、観客は流れるBGMに合わせて手拍子で迎え入れます。チャンピオン牛が決定した瞬間には、割れんばかりの拍手でチャンピオン牛の栄光を称えていました。

グランドチャンピオン牛の出品者であるアメリカのウイスコンシン州にあるミルクソース ジェネティクスは、４才クラスにおいて１から３位を独占するなど、圧巻の強さをみせていました。この年のプレミアムエキジビターには、そのミルクソース ジェネティクスが選出され、山口団長がプレゼンターとして北海道ホルスタイン協会長賞の盾を贈呈しました。

当才ジュニアクラスの審査の様子

4才クラスの審査の様子
手前の牛はGCのチヤーウイル アテイツク マーシー

成牛クラス審査の様子
RGCのMS ゴールドウイン アラナ ET

GCに輝いたチヤーウイル アテイツク マーシー
（デーリィマン社提供）

本ツアーにおけるカナダ最後の夕食は、ホテルから徒歩５分ほどの距離にあるステーキハウスで堪能しました。本日のショウや普段中々話せないこともざっくばらんに話し、大変内容の濃い一日となりました。

11月14日　帰国の途へ

出発まで少し時間に余裕があったので、希望者数名はホテルから徒歩10数分の距離にあるセント・ローレンス・マーケットに向かい、お土産を調達しました。

プレミアムエキジビターの記念写真
右端が当組合理事の山口団長、左端が小職

出発前の解散式では、山口団長の「今回の研修旅行で得た経験を現場に持ち帰り、皆様それぞれ頑張りましょう」との挨拶で締めくくりました。羽田空港へは定刻どおり到着し、本州からの参加者と別れました。道内からの参加者は、新千歳空港行きのフライトに乗継し、午後８時半に到着しました。これで本研修のすべての行程が無事終了しました。

今回初めて視察旅行へ同行し、大変貴重な経験をさせていただきました。このような機会を与えていただいた組合長をはじめ、組合ならびに関係団体の皆様に深く感謝致します。また、本記事で掲載した写真の一部は、デーリィマン社の斎藤氏より提供いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

（改良部改良課技師　馬場）